

一般演題口演 | 一般演題：病院前救急(ドクターカー,ヘリ等)

■ 2024年7月19日(金) 9:40 ~ 10:30 ■ 第7会場 (カクイックス交流センター 4階 中研修室3)

**[O20] 病院前救急(ドクターカー,ヘリ等)①**

座長:荻野 隆光(川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科)、鳴海 篤志(陽明会小波瀬病院 救急科)

10:08 ~ 10:15

**[O20-05] フライトナース経験看護師が経験したキャリア・トランジションに対する認識とセカンドキャリアへの影響**

\*奈良 唯唯子<sup>1</sup>、水澤 彩子<sup>2</sup>、橋本 真由美<sup>3</sup>、金子 直美<sup>1</sup>、川田 恵利子<sup>1</sup>、高柳 朋恵<sup>1</sup> (1. 神奈川工科大学 健康医療科学部 看護学科、2. 川崎市立川崎病院 救命救急センター、3. 福島県立医科大学 医学研究科 災害・被ばく医療科学共同専攻 災害危機管理看護学講座)

【はじめに】看護師は組織の一員として部署異動があり、それがキャリア・トランジションとなり得る。高い専門職的自律性を持つフライテナースであっても、様々な理由でキャリア・トランジションを迎える。【目的】フライテナースを経験した看護師のキャリア・トランジションに対する認識とセカンドキャリアに向けて望む支援を明らかにし、新たなキャリアへの移行をスムーズにするための示唆を得る。【方法】フライテナース経験者10名半構造化面接を行い、質的に分析した。【結果・考察】フライテナース経験者は、キャリアに対し「関心」を持ち、トランジションはキャリアへの意識、身体に関することや部署異動がきっかけとなっていた。トランジションを意識していた看護師は新たなキャリア獲得に前向きに向き合い、これまでに培った知識・技術を、新たな環境でのキャリア「自信」に繋げることができていた。一方で、希望した部署異動でないものには、抵抗感や葛藤をいただき、「キャリアコントロール」に時間を要し、上司に対し次のキャリアに向き合うための関わりを望んでいたことから、個人の特性を見極め、役割再構築のための意図的な関わりが必要であることが示唆された。